

山口とも
廃・品・遊・戯

エコジン・インタビュー
[ecojin_interview]

どんなものでも、楽器になる。

捨てられてしまったごみだって、アイディアしだいで、ステキなリズムを奏でだす。

パーカッショニストの山口ともさんは、オリジナルな廃品打楽器をたずさえて、
今日も日本のあちこちでガラクタ音楽会を開催中です。

写真／キッチンミノル

エコジン vol.10
2009年1月号

デザイン
Tattaka、泉沢儒花 (Bit Rabbit)

Cover撮影
kuma
コンセントに差し込み、家電製品をつなぐと、電気代やCO₂排出量が一目でわかる、「エコワット」。家庭でのエネルギー消費を見直して、地球温暖化防止につなげていきませんか?

エコジンとは、“エコロジー+人”、“エコロジー+マガジン”的こと。
環境のことを考える人が一人でも多くなることを目指す、環境省発信のエコ・マガジンです。

※本誌の掲載文のうち、執筆者の意見にある部分については、環境省の見解と異なることがあります。

CONTENTS

35	34	33	32	26	24	22	18	16	06	03
エコモノ	エッセイ 大江戸エコロッカ 第十回 「土に還る(5) 竹を使う」 文／石川英輔	エコ生活のもと エコジン・アイ	エコ百科 「木材調達のグリーン化」	エコジン・レポート 「エコ・ファーストの約束」			海外エコ事情 はじめよう、CO ₂ ダイエット。 特集2			

エコジン・インタビュー
山口とも「廃・品・遊・戯」

はじめよう、CO₂ダイエット。

お知らせ

いつも弊誌をご愛読いただき、誠にありがとうございます。雑誌『エコジン』は次号3月号から、インターネット上でご覧いただける、電子書籍として生まれ変わります。紙媒体としての発行は今号をもって終了となります。来年2月には環境省ホームページにて公開いたしますので、引き続き、インターネット版『エコジン』をよろしくお願ひいたします。

www.env.go.jp

山口ともとの廃品打楽器図鑑

ともさんが生み出してきた廃品打楽器の数々。JJJでは、その一部を紹介しましょう。

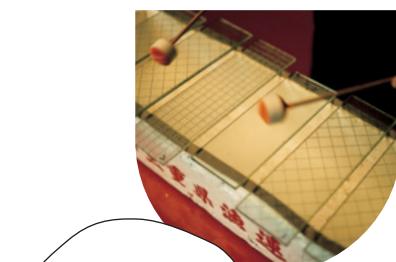


スペース・スプリング
業務用のホールトマトの缶にバネをつないで、
バネ部分をこすると……SFチックな宇宙サウンドが!



ダクトちゃん

エアコントローブをアーティオのよう「上」下させると……なんとも「一」くなべく「音」がします。



なんでもつかない
発泡パテローブのトロ箱で、木材やラグラバの板やら、
もどかわ並べて叩いてみると、かわいいエキゾチックな音色が響かだしがむ。



ギリシャ神話に出てくる、触れるのみな黄金に変えてしまう手をもつた王様——マイダス王。ともさんもこの王様みたいに、触れるものみな音楽に変えてしまう。

彼のジャングル・ドラムはガラクタのかたまりだ。ごみ箱はバスドラム。キムチ缶がスネアドラム。灰皿のハイハット。ポリバケツのタム。オタマをステイックの、ハタキをブラシの代わりに握って、ガラクタの中心に鎮座しているともさんは——まるで、廃品の王様だ。みんなが都市のバックヤードに捨て去ってしまった、あらゆるものからリズムを響かせる、廃品のマイダス王。

はじまりは、こうだ。13年前の音楽劇『銀河鉄道の夜』のため、音楽の依頼。「この舞台の装置っていうのが、ちょっと普通じゃない、へんちよこんなオブジェだったんです。衣装も

小道具も変わつてました。最初は既成の楽器で演奏しようと思ったんですけど、なんだか舞台の雰囲気に比べて、現実っぽすぎる。もっと、何を叩いているか分からぬ、想像もつかないような楽器がいい。それで、

日常にあるものを楽器にして、うまく音を引き出したら面白いかな」と思つたんです。地球上にあるものには、すべて音がありますから。もちろんホームセンターにいければ材料はすぐに揃えられるんだけど、なんかこう、ごみに目がいつちゃつたんですね」

ジャングル・ドラムセットや宇宙サウンドを奏てるスペース・スプリングなどなど、廃品から生まれた楽器を「こんなの作っちゃった」と持つて行くと、音楽監督の反応が非常に良く、舞台の評判も上々だった。そこから、ともさんのガラクタたちとの付き合いが始まる。

今では「ともとのガラクタ音楽会」として全国行脚。一斗缶のドラムを叩き、足にも灯油缶をはいてドンガラガッシャン! と登場する「ともとも」に、どんな大騒ぎしてた子どもたちも、一瞬目をむく。

「さいきんエコ・イベントにも呼ばれるので、『ともさんのやつてることはエコ活動ですよね』なんて言われるんですけど、ぜんぜんそんな意識はないんです。音重視。僕の中では、かっこいい音ができたなと思ってるだけ。一生懸命ごみを減らそうと思つて楽器を作つている人がもしいたら、そのうち嫌になつちやうと思うんですよ」

ともさんの作り出す楽器には、みな音程がない。だから、どう叩いても「間違い」じゃない。「音楽って、文字通り音を楽しむのが原点。既成の楽器は、ちゃんと練習して曲を覚えて、譜面が読めて、

それではじめて楽器が生きてくる。そこには『苦』もついてくる。でも音楽つてもつと自由なんだつていいたい。こんなガラクタから、こんなステキな音が出ちやうの!?

うね。技術ばっかり突き詰めていくと、ぜつたいすぐ頭打ちになつちやう。心地よい音を探せる耳を育てることつて、すごい大事な気がするんですね」

もつと自由に。あらゆるものにリズムがある。

「ヒトが生きること 자체、心臓がリズムを刻んでるから、もう音楽なんですよ」。廃品のマイダス王の手にかかると、人間だってリズムを刻み出す。「歩くと足音がする。その足音もリズムになつてる。足音にあわせて歌をうたつてみる。手拍子も加えてみる。ただ歩いているだけで、も、充分、音楽。この世に存在しただけで、音楽」

山口とも

東京都出身。祖父の山口保治は「かわいい魚屋さん」など知られる童謡作曲家の山口浩は新日本プロレスモードのティンバ二名譽首席奏者。つのだひるのアンサンブルとして音楽の世界に入り、現在フリーのバーカッショニストとして活躍中。03年4月～06年3月、NHK教育テレビ「ドリームテレビ」に「ともとの」の愛称でナレーター出演。<http://www.terradutin.jp/tomoyama>

地球上のものすべてに、音がある。

